

八女中・八女のき 日窓会新聞

題字 山口修氏(高14回)

第15号

発行日/平成29年5月26日
発行/八女中・八女高同窓会
TEL(0942)53-4184 FAX52-0341
編集/八女中・八女高同窓会事務局
〒833-0041
福岡県筑後市大字和泉251
福岡県立八女高等学校内

追悼 秋原 孝先生 ミスター八女高 と呼ばれた男



ミスター八女高と呼ばれた秋原先生。

昨年十二月に亡くなられ、ご本人に話を聞くことはできない。いったいどんな人だったのか、ご縁のある人たちに話を聞きながら、ニックネームの由来を探って行こうと思う。

「昭和」を体現

「秋原先生を知らない人はいませんよ」と話すのは、八女高のE先生。実際に現役生に「秋原先生って知ってる？」と聞くと、尋ねた四人がみんな「寒稽古の」と答えてくれた。



寒稽古での講話

秋原先生の経歴を見ると、八女中・八女高に深くかかわられた人だということがわかる。「古い人間でしてね。学生時代は戦争に行くつもりが終戦になって。現役の時とは体罰なんかもしていたようで、今だと

きつと問題になっていきますね。皆さんにぜひぶんど迷惑をかけたと思えますよ。良くも悪くも昭和の先生でしたね」と話すのは、妻の伸子さん。その話を裏付けるように「当時、男子は柔道と剣道が必須でね。柔道の先生だった秋原先生は本当に怖くて、すれ違う時は目を合わせないようににして、うつむきながらあいさつしていたよ」と、高校19回生久保大(ふとる)さんは語る。秋原先生の教え子で、後に八女高の学校長を務められた。「先生は声が大きくて、何かあると『カラー』とすぐ飛んでくる。だからたまに冗談を言われるとほっとしていたもんだ(笑)」。



久保大氏

今に残る秋原先生の遺産

話を聞くと厳しい先生だったと思われる。実はその厳しさが受け継がれている行事がある。私たち41回生とは縁がないと思われた秋原先生だが、在学中に体験した寒稽古や清水山鍛錬遠足(現在は飛形山遠足)、それに大運動会のブロック対抗制は、先生が保健体育教師の時に始めたものだった。寒稽古は、戦前

買った母校愛

に行われていたが戦時中の混乱期に行われなくなり、それを秋原先生が復活させた。戦時中を八女中で過ごした先生としては、校訓の「質実剛健」の伝統を守るためにも、ぜひとも復活させたかったのであろう。ちなみに体育館に掲揚されている八女中の校歌と、校門を入って左手にある「ときわに輝く」の碑は、八女中・八女高一〇〇周年記念時に秋原先生が発案したものである。行事だけでなくこういったところにも、秋原先生が残したものがあつたのだ。

退職後は、大運動会に文化部発表会に、そして野球の試合の応援にと、いろんな行事の度に八女高に足を運んでいた秋原先生。寒稽古を復活させた責任感なのか、寒稽古がある時は、具合が悪くても顔を出してあいさつしていた。それで現役生にも知られていたのだ。とりわけ野球部への思い入れが強かったらしく、応援に行く時だけでなく「どこに行くにも八女高の帽子をかぶっていた」(伸子さん)。まるで八女高の宣伝部長である。取



野球部定期戦

材を進めるにつれ、秋原先生がなぜ「ミスター八女高」と呼ばれたかわかるような気がしてきた。

厳しき優しさと

厳しくて有名だった秋原先生だが、ただ厳しいだけでなく、情に厚く記憶力も抜群で、同窓会で「先生お久しぶりです。自分のこと憶えていますか」と教え子たちがやっていると、「おう、お前は高校時代〇〇をしようとした〇〇やな」と、担当していたクラス以外の生徒たちの顔と名前をほとんど憶えていたという。だからこそ、怖いながらもたくさんさんの教え子たちに慕われていた。久保さんはこう語る。「秋原先生とは、生徒としてより教師になってからの付き合いが長いんですが、教師としてあるべき姿を教えられました。公私にわたり面倒を見ていただき、転勤のたびに声をかけてもらったりして心強かったです。厳しくもあり優しくもあり…教師としての成長を喜んでいただきました。頭が上がりませんよ。先生の弔辞を読ませてもらいましたが、教え子として心からご冥福をお祈りすることができました」。

八女高の教え子に弔辞を読まれ、棺には八女高の野球帽が入れられ、

八女中・八女高の校歌で送り出された秋原先生。母校愛に生きた人にかわしい葬儀だった。

そんなミスター八女高が残した言葉で締めくくりたい。現役生だけでなく、卒業生の私たちも心に刻まなければならないだろう。

「八女高は、県南の雄たれ」

秋原 孝先生 略歴

昭和五(一九三〇)年生まれ。戦中戦後の昭和十七(一九四二)年から二十二(一九四七)年までを旧制八女中の36回生として過ごし、旋盤工として学徒動員も経験。在学中は野球部に在籍し、その後東京教育大学(現筑波大学)で柔道を学ぶ。大学卒業後は保健体育の教師として筑後地域の高校に勤務。八女高校には最初は三十四歳の頃から十年以上勤務し、後に教頭として再び着任。黒木高校校長、山門高校校長を経て退職。亡くなる前まで八女中・八女高同窓会副会長を務めた。



秋の大会を激励



野球部の教え子たちと



OB戦



野球部定期戦(対八女工)

創立一一〇周年を記念して 八女高校サポート基金を 設立します!

本校は平成三十年に創立一一〇周年を迎えます。創立一一〇周年を記念して、八女高生の高校生活を支援し、広く母校の隆盛を図ることを目的に基金を設立します。

基金による支援内容は、①同窓会奨学金への支援(奨学金の充実) ②生徒海外研修への支援(グローバルゼーション対応) ③電子黒板等の設置(学校のICT環境の推進)を考えています。

なお、基金の収入を図るため、同窓会員ほか趣旨に賛同いただける方に寄附金(募金)を募ります。

おつて、平成二十九年七月上旬に同窓会員の皆様へ趣意書を送付させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

平成二十九年五月二十六日

福岡県立八女高等学校
創立一一〇周年記念事業実行委員会
実行委員長(同窓会長) 下川 泰

福岡県立八女高等学校創立110周年記念 八女高校サポート基金募金 概要

募金目標額 3千万円

寄附金額

【個人】一口 5千円

(ご都合に応じ、金額にかかわらず有り難く頂戴いたします)

【法人】【団体】指定なし

募金期間

平成29年7月から平成30年6月まで

※平成30年7月以降も募金は受け付けていきます。

払込方法

ゆうちょ銀行の払込用紙によるお振込

最高位の 段位審査を突破!



八女高29回卒の井手勝彦氏（八女市黒木町在住）が合格率1%と言われる剣道八段審査を突破されました。

剣道八段位の審査は、毎年五月に京都、十一月に東京で開催されていますが、井手勝彦氏は、昨年五月の京都での審査に合格されました。以下は、井手勝彦さんにお話を伺った内容をQ&Aで紹介いたします。

Q 剣道を始めるきっかけは何でしょうか？
A 私の住んでる黒木町では小学四年生の二期期からほとんどの男子は剣道を始める環境にあったので、私も自然と剣道を始めました。

Q 八段位に受かるまでの苦労はありましたか？

A 今回十回目の挑戦で受かりましたが、やっぱり一次審査通過が難しく、審査に落ちても受け続けることが修行だと思って取り組みました。

Q 高校時代の剣道の思い出はありますか？

A 練習時には、毎日のようにOBの方に稽古をつけていただきましたが、黒木町の家から高校まで、国鉄矢部線で通学していたので、練習時間があまり取れませんでした。

Q 記憶に残る試合はありますか？

A 八女高校三年生の玉竜旗大会で副将を務めて順調に四回戦まで駒を進め、強豪の福岡商業高校を前に、敵の大將まで戦うと一致団結して試合に臨みましたが、相手の先鋒に五人抜きされてしまいました。

Q 普段の練習はどれくらいですか？

A 会社での練習が火・木・土で約一時間三十分ずつですね。ただ、仕事の都合などで週二回ほどに



なっています。

あと黒木町での稽古に月二回ほど顔を出しています。

Q 剣道を続けてきた理由を教えてください。

A 剣道は、段位が上がるごとに、次々に見えてくるものがあって、それを追い求めてきた気がします。

Q 剣道をやって良かったことはありますか？

A 剣道を通じて職場だけでなく、色々な職種の人と知り合いになることができました。

また、仕事で困難に直面した時に正面から向かっていく気力を養う事が出来ました。

取材を終えて

取材する前は、怖くて厳しいイメージがありましたが、実際会ってお話を伺うと、まさに母校の校風である「質実剛健」を思わせるような方でした。そして、優しい笑顔がとても印象的でした。

最近では、剣道の試合に出るよりも審判を依頼される事が多いそうです。また、玉竜旗大会の前には母校でしばしば後輩の指導にあたられているとのこと。

【剣道一口メモ】

剣道の八段位の受審資格は、七段位に合格後十年以上修業してはじめて与えられます。また、年齢制限があり、四十六歳以上でなければ受審資格がありません。

さらに、剣道の高段位の審査は、非常に合格率が低いことで知られています。井手勝彦さんが受けられた昨年五月の八段位の審査結果をみると、二日間で一六三六人が受審し、一次審査、二次審査を通過した合格者が十七人という結果でした（合格率は約1%）。





同窓会会長
下川 泰 (高2回)

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

母校は、来年一一〇周年を迎えます。三月一日の卒業式の前日、二月二十八日に高69回生二二二名の八女中・八女高同窓会入会式を行い、同窓生は現在二万八五〇五名を数える規模となりました。これも明治四十一年創立以来、一〇八年に亘る歴史と伝統の賜物と思えます。

四月七日には、新しく72回生二四〇名が入学いたしました。現在高校は、六クラス制(九クラスの時期もありました)で運営されていますが、今後現状のまま経過すれば、通学区内の過疎化・少子化が進行し、受験者も減り、クラス数減も避けられかねません。クラス数減は、教員数の減にもなり、同時に、教育機能の低下にもつながります。それに、運動会などの学校行事の小規模化にもなり、次第に衰退していく可能性もあります。母校がこのような状況にならないように、今、何らかの対策を講ずる時期に来ているのではないかと考えています。例えばITの進歩に伴い急激に変化する時代に対応し、理数系を強化し、通学区域を拡大し、受験者数の増加を図ったり、また、嘉穂高校や宗像高校のように中高一貫校にするのも一案かと思えます。このような状況を踏まえ、例えば、同窓会・学校・PTAなどの関係者を交え、「明日の八女高校を語る会」などを開催し、どのようにしていけば八女

高の歴史と伝統を継承し、発展・維持できるのか等、広く、皆さん方のご意見をお聞きしたいと思っております。さらには、同窓会諸氏のご意見などもお聞かせいただきたいと思います。

さて、現在同窓会は財政上の問題を抱えています。生徒数減は同時に同窓会会計の収入減にもなります。そこで、入学希望者にとって魅力ある学校であるためには、学校自体にも色々な対策が必要で、現在の東京研修や海外研修などもその一つです。このような行事には予算的な裏付けも必要で、同窓会からの幾ばくかの援助も必要となります。このようなことから支出も膨らみがちで、財政も次第に窮屈となり、同窓会費や同窓会総会チケットの増額なども必要となつてきています。

次に、来年に迫っている創立一一〇年の周年事業のことがあります。現在、学校は、同窓会及びPTAと一緒に、周年事業の計画・立案・実施に向け準備に入っているとあります。事業内容としては、三十年を経過し限度が来ている校旗の新調、IT化時代に相応しい電子黒板の設置、当時筑後地区には中学校は明善、伝習館しかなく、八女地区に母校の誘致を図ることに大きく貢献された田中慶介氏の顕彰碑、五年毎の同窓会会員名簿の更新、そして次第に逼迫しかけている同窓会財政を強化するための、同窓会基金の開設(今後十年間で三〇〇〇万円募金)、記念学校行事(記念講演を含む)などです。いよいよ、今年四月から創立

一一〇周年事業の準備に取り掛かることとなります。

以上のような事等から皆様の絶大なご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、会員各位のご健勝と、今後ますますのご活躍をお祈りします。



八女高校校長
別府 尚樹

平成二十九年度の人事異動で八女高等学校の校長を拝命いたしました別府と申します。同窓会会員の皆様方には日頃から本校の教育活動に對しまして物心両面におたり、格別の御支援と御理解を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

同窓会におかれましては、特に、毎年九名の生徒を対象に奨学金給付事業を実施していただいておりますところ、昨年度から対象生徒を十五名以内に拡充していただき、これ以上の喜びはございません。県下でもこのような御支援は珍しく、しかも財政難から縮小する学校も多いとお聞きする中、本校では更なる拡充を図っていただいております。志を持つ生徒が一人でも多く経済的な支援を受けられる、母校愛に満ちた同窓会諸氏の心意気に感激させられるとともに、ただただ感謝申し上げるばかりです。

ところで「感激」といえば、八女高校に赴任して感激したことがもう二つございました。一つ目は、校内で会った生徒達が大きな声で、立ち止まって礼をしてくれたことです。春休み中であり私のことは知らないはずですが、

大きな声で挨拶をしてくれ、清々しい気分になれました。二つ目も挨拶に関することですが、校門を出ていく生徒達が校舎に向かって「校門一礼」をしてくれたことです。自分自身を鍛え、高めてくれる「学び舎」に感謝の気持ちを込めて一礼する、校内での「立ち止まって礼」とともに、そんな生徒の姿が当たり前である、なんと素晴らしい学校文化が根付いているのか、と感激するとともに校長として、本校を預かることの重責をあらためて感じました。

学校の近況につきましては、去る三月一日、内田武文前校長のもとで、下川泰同窓会会長、副会長であられます蔵内勇夫県議会議員、田村貴子筑後市副市長をはじめ、多くの同窓会役員の方々の御臨席を賜り、第六十九回卒業証書授与式が挙行され六クラス二二二名の卒業生が母校を巣立っていきました。そして、入れ替わるように、四月七日には、第七十二回の入学式を行い六クラス二四〇名の新入生が入学し、新年度がスタートしました。生徒達は「質実剛健」の校訓と「文武両道」の校是のもと、勉学に部活動に精励いたしております。是非とも皆様にも母校へ御来校いただき、生徒達を激励していただければ幸いです。私ども職員一同、本校の益々の発展のため、一丸となって尽力する所存です。結びに、八女中・八女高同窓会の更なる御発展と会員皆様の今後の御活躍・御健勝を祈念申し上げますとともに、心からの感謝と感激をお伝え申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

支部だより

◆関東支部

「出会いに感謝。」

そして、方言でよか日!

支部長 福本 博 (高12回)

平成二十八年年度の関東支部同窓会総会・懇親会は、六月十一日神田神保町の「喜山倶楽部」に会場を移し、中36回から高54回生までの四十二年、総勢三〇一名(過去最高)が集い、来賓として大塚同窓会副会長、内田校長、中村筑後市長を迎え、盛大に開催されました。大塚副会長からは熊本地震の影響や支援の為に募金活動等、内田校長からは母校の現状や東京研修支援に対するお礼等、中村市長からは八女高同窓生が中心となった「筑後市ふるさと応援団」結成のお礼等の祝辞をいただきました。

今年度の当番幹事39回生は「卒業アルバムスライドショー」「地元クイズ大会」「野田徹さん(高45回生)のミニライブ」など趣向を凝らしたイベントで盛り上げ、お茶娘による八女茶の「おもてなし」もあり、参会者を満足させてくれました。

懐かしい人と会い、笑って話して最後には皆で校歌を合唱とあつという間の三時間。「出会いに感謝」そして来



年の再会を約束し散会しました。

なお、平成二十九年の「関東支部総会・懇親会」は会場予約が難航し、第三土曜日の六月十七日に変更いたしました。また間に合いますので、皆様の参加をお待ちしています。

募金活動の報告

関東支部でも熊本地震復興支援の為に募金活動を五月二十四日開催の「東ゆうかり会」や六月十一日開催の「総会・懇親会」の会場にて募り、会員の皆様の御厚志により、十三万九〇〇〇円余りが集まりました。日本赤十字社を通じて被災地に贈られた事をご報告いたします。

その他行事・お知らせ

関東支部では、各行事開催の都度「関東支部だより」を発刊していますので、詳細は同窓会本部HPの支部情報から入って閲覧下さい。



◆大牟田支部

八女高の誇り

支部長 下川 斌弘 (高11回)

大牟田市には、生涯学習課と言われている部署があります。他の地域にもあると思われるのですが、学習課の仕事の一つとして、市民の文化活動のお手伝いをする部署である、美術協会の窓口となることがあります。その協会の中でリーダーとして活動している同窓会員が居られますので紹介しようと思います。

八女中34回生、山口圭一さんです。日本画・洋画と幅広く活動され、大牟田市市民の絵画界はもちろんのこと、地域一帯の指導にも力を注がれる一方、精力的にスケッチ旅行にも頻繁に出向かれています。



阿蘇を中心にして、九州はもちろん、中国の桂林をはじめ、スイス・スペイン・東南アジアから南米へとスケッチの旅をされています。

一方、八女高14回生、山口修一さんです。同窓生の中にはご存知の方も居られると思いますが、毛筆の部門で大牟田市民愛好家がいることはもちろん、福岡県から熊本県など幅広く活動され、各地で支持されています。

我々は、いつでも彼の作品を見ることが出来ます。それは、学校の正門の門柱に福岡県立八女高等学校の文字が見られます。彼の筆跡【作品】です。同窓生の活躍の場です。

◆立花支部

この地に生きる

支部長 朽網 英文 (高21回)

いつもの場所、矢部川城にて三月第一日曜、午後五時より立花支部総会を開催いたしました。

今年度変わったこと

とは、本校の学校長の他に、筑後支部の久保支部長、八女支部の北島支部長、広川支部の井上支部長に花を添えていただいたことです。また、本年度お世話の40回生と次年度の41回生にも参加いただき執り行いました。



例年のイベントとして、今年は講師として現職の県土整備事務所所長の松延均氏をお招きし、「この地に生きる」と題して三十分ほどの講話をしていただきました。帰郷子育てー仕事と生きてきた中で、自分の今の想いとこれからの夢をどう結びつけていくのかを考えていきたい。矢部川流域の人々や関係する地域の連携を楽しみに、今後の「矢部

川流域オルレ」なども計画してみた
いと、熱く語っていただきました。

外から見た筑後八女の良さをしみ
じみ話される中で、細々ではありま
すが立花支部もまた頑張らねばとい
う思いでした。なかなか参加人数を
増やすことができませんが、次につ
ながる活動を続けていきたいと念
じ、報告いたします。

少人数ながらも、楽しみに参加い
ただく先輩方の元気な姿を、また来
年もお目にかかれる事を楽しみに、
次回を待ちたいと思います。

◆ 広川支部 広陽会の絆

支部長 井上 利明 (高17回)

今年も恒例の広陽会総会を二月
十一日(建国記念の
日)に広川町の料亭
扇屋で開催いたしまし
た。今年も例年同様
に広川町内各行政区
から選出された役員に
よる役員会を開いて総
会段取りを話し合い、
その後、役員が会員
宅を訪問して出欠を確認して参加費
および年会費を集めました。比較的小
規模な組織と地域を活かした取り組
みと役員諸氏のまとまった積極的な協
力体制が会員相互の絆を深めているこ



と思えます。

総会では下川泰同窓会長、内田武
文校長、北島正道八女支部長にご臨
席・ご挨拶をいただきました。先ず物
故会員の弔い・黙とうを行い、「暁」と
「ときはの森」を高らかに斉唱、行事
および会計報告が事務局より行われ
た後、恒例の講演会を行いました。今
年は八女高29回卒業の竹下英治氏に
お願いしました。竹下氏は防衛大学
校を卒業後、航空自衛隊に入隊され
現在は退官されて広川町に帰郷され
ています。「豆知識、周辺諸国の軍事
について」という演題で講演を賜りま
した。昨今の東南アジア情勢を見据
えたタイムリーな内容についての興味深
い講演でした。講演後の懇親会では恒
例の同窓会総会の当番役員(高40回)
さんによるチケット頒布があり、来賓
の方、支部会員および同窓会の当番
役員さんを囲んで世代を超えた交流
が行われました。懇親会では広陽会
副会長の大隈康子(高15回)先輩率
いる八女高音頭の総踊りで盛り上が
りました。今年も当面の目標である
五十名を超える参加者を維持できた
ことは広陽会総会の魅力と世代の多
様化が進んでいることを物語るよう
です。近年、広川中学校からの八
女高校進学者数が増加しています。今
後もさらに広陽会と八女高校の魅力
を広めたいものです。

◆ 大木支部

第1回親睦ゴルフ実施

支部長 眞邊 泰則 (高16回)

大木支部では、平成二十八年度
支部総会を恒例の
十一月第一土曜日
(十一月五日)、大木
の湯「アクアス」に
て開催いたしました。

今年度は、来賓と
して下川泰同窓会会
長、原口聖司教頭、
鬼塚弘喜事務長のご
臨席を賜り、昨年に引き続き支部内
の二小学校長(いずれも卒業生)に
もご参加いただき、若い卒業生の参
加も増えて盛大に開催することがで
きました。



総会行事では、学校及び同窓会
本部から現状と平成三十年の創立
一〇周年に向けての計画や課題な
どの報告、平成二十七年年度の決算と
事業報告として第一回親睦ゴルフ(五
月七日サンレイクG.C.)にて、古賀
勇人君(高25回)の優勝、大同窓会
折込チラシ広告掲載への協賛依頼が
あり、平成二十八年度予算・事業案
が原案どおり承認されました。第二
回講演会では、ロンドン大会に引き
続き、リオ・パラリンピック大会女子
柔道監督・柳川特別支援学校教諭

井上五十八氏(高28回)より、「リオ・
パラリンピックで感じたこと」と題し
てご講演いただきました。障がい者
の指導や大会の様子、選手の活躍(銅
メダル獲得)、さらに二〇二〇年東京
大会に向けての選手発掘や育成、強
化活動に至るまで始動している事な
ど、貴重な話に耳を傾けることがで
きました。

懇親会では、当番役員による大同
窓会のチケット販売があり、来賓、会
員の皆様と世代を越えた、和やかな
雰囲気の中で親睦を深めることがで
きました。

終わりに、初参加の高63回生の感
想を紹介します。

「今回初めて参加させていただきました
ましたが、井上先生の、熱く、内容の
濃いご講演や、気さくに話しかけてい
ただいた先輩方のおかげで、とても
有意義な時間を過ごさせていただきました。
役員の方をはじめ、お世話
してくださった方々、本当にありが
とうございました」(S・I)

◆ みやま支部

支部長 大田黒 誠之 (高26回)

みやま支部におきましては、毎
年二月下旬頃総会を開催いたして
おりました。前回で「第二十八回」
を重ねることができていましたが、
残念なことに出席者が年々減少し、